

宿縁

一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 **中原寺**

TEL 〇四七―三七二一〇二九二
FAX 〇四七―三七二一〇二六二

人間は如来の仰せを

受ける器なり



このたび、以前からは非拝観したいと思っていた京都東本願寺御影堂門の楼上堂内に安置されている非公開の三尊像(釈迦如来・阿難尊者・弥勒菩薩)を拝ませていただくことが出来、感慨無量でした。

東本願寺の御影堂(こえいどう)は世界最大級の木造建築で、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の御真影(御木造)が安置されていることから、御影堂と呼ばれています。人々を浄土真宗の教えが説かれる道場である御影堂へと導く門が二層の大きな御影堂門です。

この三尊像は、お釈迦様が阿難尊者と弥勒菩薩に浄土真宗の根本経典である「仏説無量寿経」を説かれたことを表しています。

わが宗祖親鸞聖人は、「それ真実の教を顕せば『無量寿経』これなり」(教行信証「行巻」)とおっしゃって、続いて「このお経の大意は、阿弥陀仏はすぐれた誓いをおこされて、広くすべての人々のために法門の蔵を開き、愚かな凡夫を哀れんで功徳の宝を選び施され、釈尊はこの世にお出ましになり、仏の教えを説いて、人々を救い、まことの利益を恵みたいとお思いになったというものである。そこで、阿弥陀仏の本願を説くことをこの経のかなめとし、仏の名号(南無阿弥陀仏)をこの経の本質とするのである。」と申されています。

昨今の人はお経の意味も知らず、死んだ人に読むものくらいにしか思っていないのは甚だ哀れとしか言いようがありません。お釈迦様がこの世にお出ましになったのは偏にこの世に生まれた意味を問うこともなく、人間とは何かを、そして私はどこに向かっているのかを問うこともなく、ただ生きていく動物に過ぎないと、この私のためにお説きくださったのがお経です。

お経は今生きていくこの私のためのものであって、死んだ人に向かって説かれたなどと微塵も思ってはなりません。理屈っぽい人はそれではなぜ法事や葬儀

でお経を読むのかと反論するでしょう。

それは亡き方々を縁として遺された私たちが仏法に遇う(お経に説かれた意味)をいただく貴重な時であり場なのです。

生れたからには必ず死のときを迎える厳しい己の身を問わしめられるのは、人間だからです。だからその問いをしないのは動物にすぎません。

お釈迦様はインドの地で何不自由ない王国の王子として過ごされながら、その豊かな生活は決して永遠のものでなく夢幻であり、誰もが免れない老・病・死の苦の解決の道を求めて出家されたのが仏教の教えを説かれた動機です。

私は近頃新聞の人生相談の紙面を見ている。そのほとんどが死別の悲しみ、病の苦しき、老いのつらさ、嫁姑、兄弟姉妹間の葛藤、夫婦愛、親子愛の破綻等です。

まさに「無明煩惱しげくして、塵数のごとく遍満す、愛憎違順することは、高峯岳山にことならず」(正像末和讃)

(自分中心の色眼鏡でしか見ることでできないところから生じる身の煩い心の悩みは、無数の塵の如く尽きることがない。自分の心になうものはこれを溺愛し、逆に氣にくわぬものはこれを瞋り憎んでいる。その激情のげいしいことは、ちょうど高峯岳山のようにある。)

この言葉が身に沁みます。

前段の「無量寿経」を説かれた内容の太字を注目してください。「愚かな凡夫を哀れんで功徳の宝を施す」というところ。人生相談の内容は他人事でなくすべての人に当ては

まるむなし人生模様です。そのことに自ら気づかぬのを凡夫といえます。他によって生かされていながら、自分の力で生きていると思いがり、自己中心の我執我欲の心で生きています。無常なのに、何時までもこの世に在ることを願い目先の快樂ばかりを追い求めていく様はテレビの画面を見ていけば一目瞭然です。無我なのに、今の自分を確かなものと思いい、自我を主張し他を傷つけ、自らも傷つきながら苦悩の人生を生きているというのが、人間のありさまです。

こうした呪縛の中に生きる私たちを見抜き、救済の誓いを建て必ず目覚めさせ、最高の功徳を施すという。施すですから人間の側から一切持ち出すものはありません。ただ如来さまのはたらきをいただくばかりです。

それを「本願醍醐の妙薬」といいます。母乳は赤子が求める前にその子が生きられるすべてを用意されています。醍醐とは最高の味であり、最上の薬とされています。母は赤子に何か要求しますか？安心して飲んでね！の親心です。「まことの利益を恵む」とは、人間に生れた目的は「仏に成る」こと、壊れることのない最上の喜びを恵むというのですから、これも仏さまが仕上げてください

ています。その証明は「南無阿弥陀仏」です。すべての人々に届いている阿弥陀仏のわれを呼ぶ親の「呼び声」です。どんなにさびしくても、どんなに苦しくてもつらくても一緒にいるからね。の慈しみです。

「それじゃあ何にもしくなくていいんだ」と早とちりしないでください。仏の真意を聞かせて頂くところに「われひと一同に仏の道を歩ませていただく」決意が生まれるのです。

【寺灯雑記】

○本堂参詣席に床暖房設置

今まで冬になると、ストーブで本堂を温めていても、足元が冷えるのが難点でしたが、このたび本堂の外陣(普段椅子が配置されている箇所)に床暖房を設置いたしました。これから冬本番ですますます寒さが厳しくなりますが、どうぞ安心してお参りください。

蓮如上人曰く「若いときに仏法は心がけなさい。年をとると行歩もかなわず、眠たくもあるなり、ただ若い時に聞きなさい」と。温かいと居眠りにご注意ください！

○寄進 木製椅子

高田 鑛様

【仏教語豆事典 「蓮托生」】

同じ蓮華の上に生まれたい

テレビの時代劇などで、よく悪者同士が仲間割れして、自分だけが捕らえられそうになると、仲間やまわりの者に「こうなりや一蓮托生だ」などと語る場面があります。みなも同罪だ、運命をともにするぞ、という意味でしょう。

一蓮托生とは、死後、極楽浄土で同じ蓮華の上に生まれることを指しています。

同じ信心で結ばれている人たち、夫婦、友人などが、来世に極楽浄土で一緒に暮らそうと願うときの言葉です。

また、この言葉は江戸時代の心中(しんじゆう)にもよく使われました。封建時代の社

会の束縛にあつて、この世で結ばれぬ恋人同士が、来世こそ添い遂げようと願うときなどに使われる言葉のようです。

それが、いつしか、善悪に関係なく、運命をともにする意味に用いられるようになりました。

(本願寺出版社

「くらしの仏教語豆事典」より)

【ブツダの教え 「お経」のことば】

「四つの願い」

仏の慈悲をただこの世一生のことと思つてはならない。それは久しい間のことである。人びとが生まれ変わり、死に変わりして迷いを重ねてきたその初めから今日まで続いている。

仏は常に人びとの前に、その人びとにもつとも親しみのある姿を示し、救いの手段を尽くす。

釈迦(しゃか)族の太子(たいし)として生まれ、出家し、苦行をし、道をさとり、教えを説き、死を示した。

人びとの迷いに限りがないから、仏のはたらきにも限りがなく、人びとの罪の深さに底がないから仏の慈悲にも底がない。

だから、仏はその修行の初めに四つの大誓願(だいせいがん)を起こした。

一つには誓つてすべての人々を救おう。
二つには誓つてすべての煩惱を断(た)とう。

三つには誓つてすべての教えを学ぼう。
四つには誓つてこの上ないさとりを得よう。

この四つの誓願をもととして仏は修行した。

仏の修行のもとがこの誓願であることは、そのまま仏の心が人びとを救う大慈悲であることを示している。

『法華経 寿量品』『心地観経』

【二〇二三年(令和五年)年回表】

*一周忌 2022年(令和4年)

*三回忌 2021年(令和3年)

*七回忌 2017年(平成29年)

*十三回忌 2011年(平成23年)

*十七回忌 2007年(平成19年)

*二十三回忌 2001年(平成13年)

*二十五回忌 1999年(平成11年)

*二十七回忌 1997年(平成9年)

*三十三回忌 1991年(平成3年)

*五十回忌 1974年(昭和49年)

*先にご往生された方を偲ぶとともに、尊い仏縁を結びましょう。

【一月の法座・行事の案内】

◎元旦修正会

*一月一日(祝・日) 朝八時

・おつとめ 正信念仏偈

・法話 「新年を迎えて」

住職・前任職

初めての年を迎えることが出来ました。

その新鮮さでお寺に参り阿弥陀様のおこころを頂戴いたすのが浄土真宗門徒としての年明けの第一歩です。

ご家族皆様でご参詣ください。

○婦人会 年次総会・法座

*一月七日(土) 一時

○仏さまの教え(常例法座)

*一月二十二日(日) 一時

法話 荒木尚太師(台東区 浄雲寺)

お釈迦さまの説かれた教えは、「いま苦しみ悲しみ、悩みのなかに生きている私」に説かれたものです。「いつか聞けるから」と後回しすることなく、ご一緒に仏さまのお話をお聞きしましょう。

○千葉組仏教壮年会研修会

*一月二十五日(水) 一時

会場：千葉市民会館 特別会議室

(JR東千葉駅より徒歩3分)

法話：西原大地師(柏市 西方寺)

講話：織田信長との石山合戦を通じて

東西に分かれた本願寺の歴史

参加費：無料

☆参加希望の方は一月九日までに中原寺にご連絡ください。

○壮年会 年次総会・法座

*一月二十八日(土) 二時

○教行信証を学ぶ(後序と総括)

*一月二十六日(木) 二時 前任職

開催の曜日にご注意ください。

【一月の掲示板の言葉】

人間の願いは 御都合主義